

平成24年度 教師海外研修報告書

氏名 船 木 智 幸

1. 今回の研修参加に際して、特に主眼を置いた点

「平和定着」に最も大きな関心があり、今回、ぜひとも内戦後のスリランカを視察したいと思い申し込みました。平和が侵され紛争が起きる要因として経済の低迷や貧困、非民主的な政治体制、宗教上の問題など様々なことが考えられます。それらひとつひとつの問題を解決した国の姿、ゴールが平和だと考えます。日本の支援を受けながら自国の力を中心に据え、平和で安定した国づくりを目指す過程を直接視察できることに大きな学びが得られると思います。紛争のあった地域で平和がどのように構築され、その構築された平和がどのように維持されるのか学びたいと思いました。

2. 視察を通して参考になったことと疑問に思ったこと

①参考になったこと

日本の支援のあり方が対象国を尊重した公正・公平なもので、インフラの整備のような大規模なものから、生活に密着した分野まで幅広く行われていることがわかりました。その支援は、税所卓也専門家の言葉にある通り「住民のためになり、政府にも認められる支援」になるように配慮され、丁寧に展開されていました。いずれの支援においても、JICA事務所の所員の方々と派遣された一人ひとりの隊員のやる気と情熱に裏打ちされて成り立っている支援であることを強く感じました。まさしく官民公私一体となった“チーム・ジャパン”で成り立っている支援だと思いました。

②疑問に思ったこと

平和構築に主眼を置いて視察をしていたため、内戦の要因についての詳しい確認が帰国してからになってしまいました。時代によりシンハラとタミルのそれぞれの民族に偏った政策が最大の要因のようですが、様々な要因がからみあっていることがわかりました。事前にもっと学習し、現地でも質問しなければならないことでした。外務省のHPに加えて、今回、北部地域を案内してくださった税所卓也専門家と元協力隊員で現在、東北文教大学で教鞭をとる齋藤由美子先生からの説明に感謝します。

3. 教育指導への活用について考えたこと

特に社会科の授業を進める上で自分自身が現地に赴き、現状を直接知り、教材化することがとても重要だと考えていました。

①社会科の授業の中で・・・日本が果たしている国際貢献の具体的な例として、今回の研修内容を教材化して提示する。

②総合的学習の時間の中で・・・異文化を知り、異文化を受け入れ尊重する姿勢が

育つよう、今回の研修内容を教材化して提示する。

- ③進路学習の中で・・・国際貢献を果たしている日本人の姿を通して、その生き方を学ぶことができるよう、今回の研修内容を教材化して提示したり、隊員や関係者の方に講演していただく。
- ④学校の中で・・・職員会議等で今回の研修内容を報告し、共有を図る。
- ⑤地域の中で・・・管内の小中学校と連携し、出前授業を行うことで国際理解がより深まるよう取り組む。また、地区の教育委員会や地元の国際交流協会と連携し、地域の方々に日本の国際貢献の実際や、対象国の現状を知ってもらえるよう、今回の研修内容を資料化して提示する。

4. 研修に関する全般的な所感と意見について

- ①視察内容について・・・国際支援の現状のみを視察することが目的になると参加者が社会科担当の教員に偏ってしまうと思いますが、その目的が多岐にわたっており、また学校教育の様々な場面で活用できることから、小中高校や教科の枠を超えた応募があり、私たち教員にとって必要な研修内容だと思います。
- ②時期について・・・10日間というまとまった期間が必要なことを考えると夏休みや冬休みを利用するしかないと思います。夏休みは研修や出張等が多いため冬休みの方が参加しやすいと思いました。ただし、年末だと視察国の学校が休業中の場合が多いことを考えると、夏休みの期間に設定し、都合のつく教員を対象にした方が、教員としての研修の目的を達成しやすいと考えます。
- ③人数の構成について・・・ひとつのテーブルに着いて話し合いが行うことができ、一人ひとりの名前と顔や人柄まで知ることができる、適切な人数だと思いました。
- ④費用について・・・本来であれば自ら希望しての研修ですので全額負担が前提となるかと思うのですが、それではなかなか申し込むことが困難になります。国からの負担をいただきながら、適切な最低限の自己負担額だったと思います。

5. JICAに対する要望と提言

- ①かつてLTTEが支配していたワウニアのホテルでお会いした日本のNGOの方々が「初めて日本人に会った」とおっしゃった言葉のとおり、内戦が終結したといえ、まだ課題が山積しているスリランカの北部を視察することができたことはJICAだけでなく外務省、スリランカ当局はじめ、様々な関係者の理解と準備があったと思われます。今回、北部への視察の許可が下りるまでの過程を教えていただくことも私たちにとって大きな学びとなったと思います。
- ②先進国である日本と新興国の中国の国際支援の考え方が大きく異なる感じがしました。日本の場合は身近な生活に密着した分野（教育・保健衛生・農業など）から大規模なインフラ整備まで幅広く対象としていますが、中国の場合、自国の経済界の牽引役として、大規模で多額の予算を必要とする分野の支援に重きを置いているのではないかと感じられました。また、日本は国の内外を問わず入札を認めているのに対し、中国はあくまで自国の企業を入札対象にしているなど閉鎖

的です。国による国際支援の目的は様々あると思いますが、支援が原因で却って国同士の関係がぎくしゃくしてしまつては本末転倒です。支援をするための国際的なガイドラインづくりを日本から諸外国に働きかけるのはどうでしょうか。

6. 今後の研修参加者へのアドバイス

まずは同じ学校の同僚と児童・生徒に研修の意義や内容をできるだけたくさん話してほしいと思います。そして、同僚には本研修への参加を促してほしいと思います。

また、現地での交流会の出し物には、ある程度時間をかけて臨む必要があると感じました。それは、迎え入れて下さる方々はとても多くの時間を当てて準備してくださっていることを感じたからです。できれば事前研修の中に、交流会に向けて話し合い、準備する時間があればありがたいのですが、日程的にかなわなければ、グループで時間を設けて準備する必要があると思いました。